

大／阪／の／建／築／ま／ち／あ／る／き —— 「東大阪」



きゅうかわすみけじゅうたく
旧河澄家住宅



正面玄関（南側より）



庭園を持つ棲鶴楼（左側）



主屋（左は市の天然記念物「かやの木」）



棲鶴楼内部



棲鶴楼の板戸

所在地： 東大阪市日下町 7-6-38
最寄駅： 近鉄奈良線石切駅下車 北西へ 15 分
見学： 非公開
参考： 「東大阪市の建造物」
東大阪市教育委員会

旧河澄家住宅は敷地中央に、桁行11間・梁行5.5間の入母屋造りの主屋があり、主屋の西側に庭園を備えた桁行4間の奥座敷が接続し、主屋の背後に長大な土蔵を配する構えの大きい民家である。このうち、奥座敷は寛永12年(1635)から万治元年(1658)まで、日下村を支配した大坂西町奉行の曾我丹波守古祐(そがたんばのかみひさすけ)が慶安年間(1648～51)に造らせた「棲鶴楼(せいかくろう)」の遺構とされている。

寛政10年(1798)の5～9月にかけて、「雨月物語」の作者として知られる上田秋成は、不自由となっていた目の療養のため、日下正法寺に滞り、河澄家の屋敷を訪ねては棲鶴楼に遊び、近郷文人たちと詩歌を通じて交わった。このことを示すように、河澄家には秋成の文学資料をはじめ、近郷文人たちの書籍や慈雲尊者筆の額などが豊富に守り伝えられている。

主屋・奥座敷ともに改造、増改築が多いながらも、なお17世紀中期の方式や部材が残っており、また奥座敷については天保6年(1835)の棟札が発見され、秋成来訪後の建築であることが明らかになったが、なお古風な箇所も見られるので、おそらくはこの頃に江戸初期の奥座敷を大改造または改築して今日に至ったものと考えられる。

以上のように、主屋・奥座敷ともに江戸初期からの古風さは残されており、かつての庄屋屋敷の遺構として、また奥座敷「棲鶴楼」は秋成のお跡でもあり、屋敷地全体を市の史跡として、建物は市の有形民俗文化財に指定されている。

平成13年に東大阪に寄贈され、現在、平成23年度以降の一般公開に向けて整備中である。
(高橋伸吾)